

動物

の

診察室

から

○ 22 ○

昨年十二月初めに、シエルティーのアリスちゃん、虚脱状態で連れてこられました。脳疾患が疑われたため、造影CT検査を行った結果、アリスちゃんの左小脳に腫瘍が見つかりました。ステロイドの投与や、脳圧を下げる点滴で、翌日には意識が回復し、視力は

ほど長くは生きることができないと考えられましたが、幸いにも食欲は回復してしまいましたので、投薬をしながら自宅で生活を送ることになりました。アリスちゃんは、皮膚病でよく病院へ来ていました。脳腫瘍になる前は、シャンプーをする時でも性格はとてもいい子で、



お母さんに抱かれるアリスちゃん

脳腫瘍になったアリス

はないのですが、首を持ち上げるようになりました。小脳は運動機能をつかさどるところで、アリスちゃんは立つことはできません。大学でCT画像を見てもらうと、小脳の腫瘍は、すでに脳内転移を起しているだろうとのことでした。腫瘍が広がっていることやアリスちゃんの症状から、それ

病院スタッフにかわいがられていました。でも虚脱状態から回復した後、私たちのことはまったく覚えておらず、触ろうとすると咬みつこうとします。食事をあげる時や体位を変える時には、介護する人が危険ですの

で、咬みつき防止にエリザベスカラーを付けました。これで咬まれる危険がなく処置をすることができます。そして、お家でもカラーをしてもらうことにしました。

アリスちゃんはまったく立つことはできず、寝たままです。排便も排尿もそのままです。脳腫瘍のために、以前と違って攻撃的になっていま

す。このような状態の犬の看護は、とても大変な仕事です。しかし、数日たってお薬を取りにいられた飼い主さんに「アリスちゃんのことわかるよ。ありがとう」と。そんなアリスちゃん

飼い主の優しさを忘れず

アリスちゃん、私たちがすることは忘れてしまっ

たままです。排便も排尿もそのままです。脳腫瘍のために、以前と違って攻撃的になっていま

ました。

その後もアリスちゃんはお家で、内服薬だけでお母さんに看護されていましたが、二月に入ってから発作が頻発するようになったので来院しました。寝たきりになって三カ月ですが、どこにも床ずれはできおらず被毛もきれいに手入れされています。大事に看護されていることがわかりました。

くらし